

～ 豊かな学びの実現 ～

愛媛大学主催社会共創コンテスト グランプリ受賞

社会共創コンテスト 丹原高グランプリ

花木で地域農業活性化

「社会共創コンテスト2025」の地域課題部門でグランプリを獲得した丹原高園芸科学科の6人



全国の高校生が地域課題の解決に向けたアイデアを競う「社会共創コンテスト2025」(実行委員会:愛媛大社会共創学部など共催)で、丹原高校(西条市丹原町願連寺)の「花木が彩る地域の農業」目指せ地域の母樹園(ほしゆえん)が地域課題部門で296作品の中からグランプリに輝いた。

担い手不足 課題解決へ 効率よい苗栽培法研究



花木による地域活性化の取り組みを発表する丹原高の生徒ら(同校提供)

同校が位置する丹原地域は県内有数の農業地帯だが担い手不足が深刻化している。園芸科学科の生徒は2019年に、地域農業の活性化に向け、花木を新たな特産品にする研究を開始。ウメやメラレウカ、ビツスボラムといった観賞用植物の苗を生産し、地元農家に販売している。

受賞作は、園芸科学科の長井朱希さん、亀山孝里さん、安藤優佑さん、越智友咲さん、佐伯琉夏さん、水野光浩さんの2年生6人が、これまでの研究成果や、自分たちの新たな取り組みをまとめた。

効率の良い苗生産や周年栽培に向け、根の活性に適した土壌の温度や発根率を高める栽培法を調査。挿し木した育苗トレイをウオーターバスを使うことで、カビの発生と枯れの抑制に成功したことなどを発表した。

審査員からは、地域農業の課題に対し花木という独自の切り口でアプローチしている点が高評価を受けた。研究した苗生産技術を農家に紹介したり、苗を販売したりしており、「実践的な知と情熱に満ちた取り組み」と講評された。

長井さんは「花木は全国的な需要があるほか、軽量で誰でも扱いやすく収益性が高い」と手応え。越智さんは「他品種にも目を向けて新たに研究を重ね、地域の活性化につなげたいと力を込めた」。

(伊藤義樹)

地域農業の課題を生徒と地元農家が共有し、
協働して解決する取組が認められ、
地域課題部門296作品中、**グランプリ**を受賞。
丹高は、地域とともにある学校を目指します。